

平成21年2月2日

各 位

会社名 株式会社 池田銀行  
 代表者名 取締役頭取 服部盛隆  
 (コード番号 8375 東証・大証第1部)  
 問合せ先 企画部長 南地伸昭  
 (TEL 072-751-3526)

平成21年3月期第3四半期の有価証券評価損及び  
 平成21年3月期の通期業績予想並びに配当予想の修正に関するお知らせ

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、取得原価に比べ時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成21年3月期第3四半期において減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じたのでお知らせします。

また、平成20年11月14日の第2四半期決算発表時に公表しました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の通期業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 1. 平成21年3月期第3四半期における有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成21年3月期第3四半期会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）の有価証券評価損の総額（＝イ－ロ）	25,088 百万円	25,088 百万円
(イ)平成21年3月期第3四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）の有価証券評価損の総額	30,422 百万円	30,445 百万円
(ロ)直前四半期（平成21年3月期第2四半期）累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）の有価証券評価損の総額	5,333 百万円	5,356 百万円

- (注) 1. 四半期における有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。  
 2. 当行の決算期末は、3月31日であります。  
 3. 「その他有価証券」で時価のあるもののうち、時価が取得原価に比べて30%以上下落し、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについて減損処理を行っております。

## ○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B)平成20年3月期末の純資産額	66,882 百万円	68,272 百万円
(A/B×100)	37.5%	36.7%
(イ/B×100)	45.5%	44.6%
(C)直近5事業年度の経常利益額の平均 (平成16年3月期から平成20年3月期まで)	6,407 百万円	6,652 百万円
(A/C×100)	391.6%	377.1%
(イ/C×100)	474.8%	457.7%
(D)直近5事業年度の当期純利益額の平均 (平成16年3月期から平成20年3月期まで)	3,944 百万円	3,865 百万円
(A/D×100)	636.1%	649.1%
(イ/D×100)	771.3%	787.7%

## 2. 平成21年3月期の通期業績予想及び配当予想の修正

(1) 平成21年3月期通期業績予想数値の修正 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	連結ベース			単体ベース		
	経常収益	経常利益	当期純利益	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	83,000	3,500	3,000	77,000	3,500	3,000
今回修正予想 (B)	83,000	△19,000	△19,000	77,000	△19,000	△19,000
増減額 (B-A)	-	△22,500	△22,000	-	△22,500	△22,000
増減率 (%)	-	△642.9	△733.3	-	△642.9	△733.3
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	88,452	△64,118	△54,968	81,966	△64,319	△55,015

(2) 配当予想の修正

普通株式

	期 末	年 間
前回発表予想 (平成20年11月14日)	65円	65円
今回修正予想	0円	0円
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	0円	0円

第一種優先株式

	期 末	年 間
前回発表予想 (平成20年11月14日)	196円	196円
今回修正予想	0円	0円
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	2円14銭	2円14銭

(3) 修正の理由

<単体ベース>

平成21年3月期通期業績見通しは、貸出金が事業性貸出を中心に順調に増加するなど、資金運用収支は好調に推移し、コア業務純益は計画どおりの150億円を見込んでおります。

しかしながら、欧米の金融不安に端を発した金融市場の大混乱が過去に例をみないほど深刻化したため、保有する有価証券に少なからず評価損が発生し、これを処理することとなりました。この結果、経常損失190億円、当期純損失190億円を計上する見込みとなり、業績予想を修正いたします。従いまして、誠に遺憾ではありますが、平成20年度の普通株式及び第一種優先株式の期末配当につきましては、見送らせていただきたいと思います。

なお、3月中に実施予定の優先株式発行により、自己資本比率は10%台と十分な水準を維持できる見込みでございます。

<連結ベース>

主に単体ベースの修正の影響によるものです。

(ご参考) 平成21年3月期通期業績予想 (単体ベース)

(単位: 億円)

	今回修正予想	前回発表予想 (平成20年11月14日)	増減	20年3月期 実績
コア業務純益	150	150	0	97
有価証券関係損益	△280	△50	△230	△635
うち有価証券減損	300	50	250	225
不良債権処理損失 (△)	40	40	0	95
経常利益	△190	35	△225	△643
当期純利益	△190	30	△220	△550
自己資本比率(単体)	10%台	9.3%程度		10.75%

以 上